

NEW EDUCATION AND TRADITION



スローガン：つなく伝統 築こう未来

【教育目標】確かな知性 豊かな感性 健全な心身

発行日：令和7年9月8日(月)
発行者：校長 吉岡 大司

「実りの秋に向けて、子どもたちの歩みを支える」

校長 吉岡 大司

夏休みが終わり、校舎に生徒たちの元気な声が戻ってきました。久しぶりに、登校してきた生徒は、ちよっぴり日焼けし、その表情には、どこか、ひと回り成長したような頼もしさを感じられます。

猛暑や豪雨など厳しい気候が続いた夏でしたが、本校では、大きな事故や事件の報告もなく、無事に9月を迎えられたことに、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力に心より、感謝申し上げます。

生徒たちにとってこの夏は、それぞれの場所で、部活動や習い事、家族との時間、受験に向けた学習など、さまざまな経験を積むことができたことと思います。

夏休みは、自分の時間をどう使うかを考える「自律心」を育てる貴重な機会でもあります。そうした経験が、これからの学校生活にも生かされていくことを心から願っています。

また、9月は「長月」とも呼ばれ、夜が長くなることで、じっくりと物事に取り組むのに適した季節です。生徒たちにとっても、落ち着いて学習に向き合える時期となってほしいと願います。

特に、3年生にとっては、進路選択に向けた大切な時期。高校説明会や体験入学を通して、進路への意識が高まっていることと思います。時には「我慢」や「不安」もあるかもしれませんが、その経験が「耐力」となり、やがて「本番の力」へとつながっていきます。保護者の皆様には、日々の声かけや見守りを通して、子どもたちの背中をそっと押していただければ幸いです。

9月1日は「防災の日」として、本校でも引き取り訓練を実施しました。全校生徒513人中294家庭の皆様にご参加いただきました。ご多用の中、ご協力いただきありがとうございます。

日本は、世界でも有数の地震多発地帯であり、日頃からの備えが命を守ることに繋がります。

今後も、学校として、地域と連携した防災教育を大切にしていまいります。

さて、この夏は、久しぶりに、夏の甲子園が気になりました。その一つが県立岐阜商業高校の活躍でした。もう一つ印象的だったのは、高校野球地方大会での選手宣誓があります。ある高校の主将が「互いの好プレーに拍手を送り、称え合いましょ」と呼びかけた言葉は、スポーツの枠を超えて、学校生活にも通じるものです。仲間の努力や工夫に気づき、「すごいね」「ありがとう」と声をかけ合うことは、互いを励まし、前向きな気持ちを育てます。

学校は、知識や技能の習得だけでなく、人との関わりを通して心を成長させる場です。

夏休み明けの9月には、前期末考査や生徒会役員選挙、文化祭、連合陸上大会など、行事が目白押しです。こうした行事は、子どもたちが仲間と協力し、互いを認め合いながら成長する大切な機会です。特に、文化祭では、合唱練習を通してクラスの団結力が深まり、人との関わりの中で思いやりや協力の心が育まれます。生徒たちが安心して、自分を出し合い、互いを尊重しながら成長できるよう、教職員一同努めてまいります。

最後に、私が夏休み前と明けの朝礼で、生徒たちに伝えた「3D」の話をご紹介します。

「だって」「でも」「どうせ」の頭文字をとった「3D」という言葉は、できない理由を並べる

「あきらめの言葉」です。これらを使う代わりに、「どうすればできるのか」を考える姿勢が困難を乗り越える力になります。3年生にとっては、進路実現に向けて、まさにこの「考える力」が求められる時期です。「焦らず、比べず、自分のペースで努力を続ける」ことが、確かな成長につながります。

これからも、子どもたちが自分らしく輝けるよう、学校・家庭・地域が手を取り合って支えてまいりましょう。引き続きのご理解とご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。